

# 第13回帯広市産業振興会議 議事録要旨

平成23年 3月28日(月) 17:00~18:00

市庁舎10階 第5B会議室

## 1、開会

## 2、会長挨拶 曾我会長

## 3、議事

### (1) 来年度予算と数値目標・成果指標と現状について

・事務局から、平成23年度産業振興関係予算と現状について、資料に基づき説明があった。

・説明後、米沢市長が入室し、産業振興会議委員への謝辞を含め、挨拶があった。

### (2) 小委員会の報告について

・地域経済リサーチ小委員会、十勝野ストーリーづくり検討小委員会の両委員長から報告があった。

### (3) 次期産業振興会議のあり方について

・次年度以降の次期産業振興会議のあり方について、各委員からご意見いただきたい旨発言があった。以下は各委員の発言要旨。

#### (委員)

委員としてやれたことはうれしい気持ちもありました。任期も短い中自身の勉強不足もあり、歯がゆい気持ちもありましたが、団体中央会の出先6カ所のうち、こういった振興会議の活動をしているのは聞いたことがないので、帯広市の強さを下支えしているひとつの事例だと思う。また第二期があれば積極的で活発な意見交換が出来る会を作っていたければ、より一層、団体中央会としても活動の幅を広げることができると考えるので、今後ともよろしくお願ひしたい。

#### (委員)

ひとつは、課題について、輪番で話をするスタイルではなく自由に議論ができる状況ができれば良いかと。情報共有や課題に対してディスカッションすることが重要なのかなと考える。この場でいきなり何かを話すというのも難しいので、できれば一部の人の課題でも熟知してディスカッションの種をまいて、いろんな人が食いつけるような仕組みがあれば、より深掘りすることができたりするとか、どのような方向にするかの情報のやり取りをされるような形が次のステップとして必要ではないか。そういう意味では課題の提示とどう集約するか役割分担が必要だと思う。次にいくとすれば、今具体的なアクションを途切れないようにするにはどうするかなど産業振興の課題への一定程度の方向性をだし、

検証して次のステップにいけるような好循環への仕掛けが必要である。

（委員）

2年間の活動の中で色々な変化があった。リーマンショック、TPP問題浮上、震災など。そういった中で、十勝、帯広を取り巻く環境の変化を踏まえて、どういったプライオリティ付けをしながら何を取り組んでいくべきかをもう一度議論するということでも意味がある気がする。ビジョンの中で課題は明らかになっているが、今どういった点に重点をおき、取り組むかを、委員の方の意見を伺いながら考えている。シンクタンク機能の連携すべき機関という位置づけで情報共有の場になればいいかなと。その議論を踏まえて、とかち財団や帯広畜産大学、帯広信用金庫が具体的な取り組みを行っていくということも考えられる。その中で帯広市が行おうとしている施策のサポートもできるのではないかと考える。

（委員）

2年間の大きく変わった点は、オール十勝という言葉が出てくるようになった。オール十勝の中で、それぞれの市町村が産業振興を考える場が必要になってきているのかなと思う。大震災の時にこれまでの右肩上がりの経済が変わり、これからは物資的な豊かさから、精神的な豊かさを構築していくようになる。その中で、自身の地域を発展させていくために一次産業を含めた産業振興、地域振興の議論の場としてこういう会議をすすめていただいたら、よりよい十勝帯広になるのかなと思う。

（委員）

昨年4月から参加させていただいており、迷いもあるなか参加させていただいていたが、小委員会の議論などは大きな成果だと思う。今後については、大きな視点で話すべきなのか、具体的に絞ったテーマを議論するのか、帯広市がリーダーシップを発揮しその中で議論させていただいたら、ヒントがでてくるのではないかな。どういう方向にしていくかは、市が明確にさせていただいたら良いのかなと思う。

（委員）

中小企業基本条例、ビジョンができ、この2年間、十勝野中小企業が元気で取り組んできて色々な形で現れているのは間違いないが、この振興会議が、それを後押しするものであったかどうかは、自身の反省も含めて思いがある。2つあるが、1つは、ビジョンには数値目標があるが、実際に困った企業のために役に立てるかが問題だと思うが、その辺は議論がなかった。この振興会議の全体的な役割としてどういう位置づけにするか、認識が下がったと思う。中小企業の活性化を通して地域の経済を振興する立場から考えれば、より広いリングから帯広・十勝の経済を取り込む形で情報を共有し、シンクタンク機能を持っていくべきだと思う。中心市街地の議論がなかったことも解消すべきだと思う。フードバレーとかちの考え方としても、色々な角度で考える必要はあるので、産業振興という全体の立場から考えるような位置づけとする。市長も話をして帰るのではなく、聞いていただきたい。また商工観光部だけでこの会議を担当するのは無理があると思う。そういう意味では市長が参加する必要があるのではないかな。その他に提案したいのは、小委員会の重

要性。今回実質的な議論がすすんだのは小委員会なので、これを充実させる。また、全く無かったわけではないが、委員からの提案制度も制度として必要があるかなと思う。

(委員)

フードバレーに関係する企業がたくさんおり、突っ込んでやろうとすると多くの小委員会を設置しないとだめかなとも思う。中小企業家同友会帯広支部の会員数が非常に多いことなどから十勝の人は勉強熱心なところがある。ただ客観的な視点が無かったり、良さに気づいていないということがある。そういう意味では、この会議の少人数でやっていける内容といえば、十勝の住民が想像できる、描くことができる画を作れたらよいのではないか。30万人が足並みそろえることができるような画が描けたら、賛同いただける人も増えていくのかなと思う。今後もこの会議が続いてお手伝いできればと思う。

(委員)

この中で農業やっているのは私だけかと思う。私の農作物は帯広には出していない。同友会の中で農商工連携部会が発足するが、その中の議論で、改めて十勝の良さを感じた。今回の震災は何かのきっかけになると思っている。十勝の野菜は原料がどこにでもある品種でそのまま出て行く。農業試験場などで開発された個性のある品種もあるが、それを十勝の人はわかっていない。それをきっちり発信していく。農業者、加工者、販売者、金融機関が連携していく、そういうことが次のステップで議論されていったら良いかなと思う。抽象的なものより具体的なことを議論していったほうがあり方としては存在感が出るかと思う。

(委員)

中小企業振興条例ができて産業振興会議ができ、行政が色々な施策をするにあたって、数値の目標が出てきており、行政の施策の効果を高めたとする意味では、非常に良い会議だなと思う。どこにニーズがありどこに政策資金を投入すればどういう効果がでるという一連のものが今回の資料にあると感じている。小委員会の中身が非常に良く、知識や情報がどういうところにあるかがわかったというだけでも個人的に良かったと思う。十勝ブランドは食を中心に展開しており、「衣食住」の住という業界に身をおく自分にとって何を求められるかは課題である。今後のあり方としては、かたちは変わったとしてもこういう場は必要であるかなと思う。

(委員)

内容として、自身の勉強不足もあるが、勉強しないと分からない内容もあり、そういった意味では何点かに重点化して取り組み、例えば、振興条例を作ったときのように、いくつかの部会を作り、得意な分野に得意な人が入り取り組む、というようにしたほうがいいのかとも思う。成果の考え方について、行政は予算付けだけで着手したという点については(企業人の考え方と)なじまなかったと思う。もうひとつは関係ないかもしれないが、シンクタンクの話もあったが、経済圏と行政単位が異なる点について、帯広・十勝というものを検討していく上で、市町村の連携はまさに重要な課題だと思う。生産活動には、生

産者、加工業者、流通業者がいる中では行政も商工会議所、商工会などが障害となることがあったが、地域連携がないとこういう事業は、フードバレーとかちも含めて成功できないのではないかなと、ここがボトルネックかと思う。

(委員)

帯広市の中小企業が抱える問題としては、大変かもしれないが、それを数字だけではなく分析、把握する必要があるのではないかなと思う。そういうものを研究していくのがひとつの使命としてあるのではないかなと感じる。帯広のブランドショーケースの取り組みはすばらしいと思うし、十勝らしさで生きていく人たちの、例えば起業のきっかけになるような提案が出来ていけば。建設業も先細り傾向であるので何か食に関する仕事ができればと思うが設備に費用がかかる。そういう人にとって企業振興のきっかけになるようなことをやっていければいいかなと考えている。

(委員)

この会議が市長の責務において開催され実施されているということを、明確に確認したい。チェックの仕方についてのノウハウが蓄積されていないので、考えていく必要がある。PDCAのチェックをしっかりとやること、条例作るときにイギリスの言葉を学んで、創業と中小企業にとって最も適した地域にするということに掲げたので、新しい政策について取り込んでいけるような、両輪で進めていく必要があるのだろうと思う。中小企業振興条例を作ったときには、侃々諤々、言いたいことを言い合って提言を作っていくということをしてきた。そういう立場からすると、これは従来型の審議会のやり方に対して、このあり方で良いのかということを出だしから思っていた。唯一よかったのは小委員会でこういうことをすることができた。肝心の親会議ではなかなかできなかった。この辺をどうするかが地域に向けてこの組織のあり方、フードバレーとの関わり方など色々あるが、話として出てくるのかなと思う。

(委員)

ひとつはこれでいいのだと思っている。平成18年から関わってきて、ビジョンや振興条例の制定の時と比較していたが、それは間違っていた。それらは最終的に収束するところがあり、ビジョンなり条例なり具体的な成果物があったため満足感があった。

産業振興会議のあり方について

・事務局から、産業振興会議のあり方について資料に基づき説明があり、これまでの会議での意見等を参考に、今後の方向性について各委員から意見をいただきたいこと、欠席委員及びこの場で発言がない委員についても、資料の論点記入シートを参考に意見を集め、次回協議したい旨発言があった。以下は各委員の発言要旨。

(委員)

振興ビジョンの推進についてチェックをするということで参加させていただいていたが、市としてはどうなのか。有効になっているのか、逆に形を変えなければいけないと思って

いるのか。

(事務局)

貴重な時間をどのように有効に使ったらいいか、皆様のご意見をどのような形で反映させたらいいかということ、もう一度考えてみたいところからこの2年間について委員の皆様がどのような考えをもっているのかを聞きたいというのが趣旨。

(委員)

率直な感想からすると、間があいて会議に参加していると記憶が断片的になりその場その場での意見となってしまう、しっかりと議論ができているのか心配になる。五里霧中でこれでいいのかという気持ちはある。

(委員)

最初の段階で見切り発車のような感じで走り出した感はある。これまで部会で専門性の高い方が作ったものを短い限られた時間のなかで経緯や思いを理解しないで意見をしていいのか。自分がどういう役割で意見を言えばいいのか毎回とまどっていた。意見交換会だけでは話がすすまない、事前にそれぞれの委員がアイデアを考えてから議論したほうがいいのではないか。

(委員)

市の振興会議のあり方が腰が据わっていなかった。産業政策の中心に据えるとは言っていたがそうではなかったのではないかと。フードバレーとかち推進プランを作る上で、なぜ産業振興会議の意見を聞かないのか。市長が参加しないのもそう。産業振興会議の役割としてビジョンの進捗管理は必要である。そのほかにもビジョン事業の具体的な取組の話題、その時々TPPやフードバレーなど熱い話題を論議して、意識を一致させたり解決策を考えていく場にするべきだと思う。住宅リフォームの助成が他の自治体で広がってきていて建設業を中心に経済波及効果が大きいと聞いているので提案したいと思っているが、部局が違うので、この場でも提案できるような環境にしていきたい。

(委員)

PDCAのチェックの部分については一定程度の意義があると思うが、プランにどう関わられるかが大きな課題になってくると思う。ただPDCA全てに関わってやることは難しいためどの役割を担うのか、選択と集中が必要になる。会議でチェックをした後に次のアクションをどのようにつなげるかの議論ができれば意義のあるものになるのではないかと。

(委員)

当初より、振興会議とはどのような役割を担ったものなのかと、思い悩みながら参加していた。やはり進捗管理だけでは、会議の期待される役割を果たせないのではないかと。議論の過程では、工程表の修正・改善案が出てきて然るべきと思っていたが、実際にはそうしたことも少なかった。一方で、小委員会での議論に参画できたこと、「とかちむら」等の

新規施策について理解を深め、意見を述べる機会を得たことは有意義だった。いずれにしても、進捗管理のほかにもやらなければいけないことはまだまだあるし、見直し余地もあるように思う。結局は、設置目的にある「(2) その他中小企業振興及び地域産業振興等に関する事」という点が、今後大事になってくるのではないかと感じている。

(委員)

チェックは必要だが、2年間経つとやはり状況がいろいろ変わってくるため、修正なり追加なりが必要になってくると思うしそういう時期になっているのではないか。ビジョンを作った後に、市長が変わって総合特区の申請があったということ踏まえて、何を議論して何を提言していくのかということは、設置要綱にあるように中小企業と協働で組み立てていくという原点に戻って議論していけばよいのではないか。進捗管理だけを行うのであれば必要性がないかと思う。

(委員)

初めの頃に比べると話しやすい雰囲気になったかと思う。工程表だけでは具体的な中身がわからないため、発信の仕方の工夫は必要だと思う。多様な機関の方が委員になるので忌憚りの無い意見ができれば参考になるものが出てくると思うが、あとは事務局側がどこまで深さを求めているかで会議の役割は変わってくるのではないか。明確にしていたかないと答えようもないかと。小委員会の報告は有益であり勉強になったため、オブザーバーとしてでも参加できる環境があれば良いかと思う。

(委員)

施策というのは全国各地で出てくるもので新しいものを取り入れてやっていきたいという話はあったと思う。進捗管理だけをやるのは面白くない。進捗管理のノウハウができてなかったのも1つの要因。フードバレーは十勝全体の議論であり、産業振興会議のメンバーでとりあげるのがいいのかどうかには留意する必要がある。また、農業者の委員が1人ということも。推進プランにあるフードバレー推進会議に産業振興会議の立場から参画していくような形をとれたらいいかと思っている。条例の中では市の責務ではなく市長の責務となっているのでぜひこの場にきて総括と来期に向けてどう思っているのか思いの丈を最後の会議でも話していただけたら。フードバレーや中小企業振興がひとつの部署で終わってしまってはならないので、行政全てをあげて作っていくという、市側の組織のあり方も検討していただければと思う。

(委員)

プランニングについての意見交換ができるような場であればいいのかなという期待はもっていた。実際に事業をやって具体的な成果がどうだったのかというのは見えにくいので、基本となるところに突っ込んで議論ができるような会議であったほうがよい。市側もこのままでよいのかという思いでこういう場面になったのかと思うが、市の方ではどのように考えているかを聞いてみたいところである。

(事務局)

特定の課題が出たときは小委員会を設置して深掘りをしていただくようなイメージをしているがいずれにしても事務局内でも議論はしたいと思っている。

(会長)

PDCAのチェックを行うのが面白くない理由であったかと思う。このままであればだんだん出席者も減っていくと思う。議会もチェックを行うが議会と重複しないように、産業振興会議はどういうことをやれば良く、効果があるのか原点に立ち返り。チェックだけでは苦痛になる。

#### 4、報告事項

(1) とかち帯広空港のダブルトラッキング化について

(2) 帯広市ホームページのリニューアルについて

(3) フードバレーとかち推進プランについて

・事務局から、(1)～(3)のそれぞれについて資料に基づき説明があった。

#### 5、その他

(1) TPPをめぐる話題提供

・委員から資料に基づき説明があった。

#### 6、閉会